

2015 年度 MJIIT 短期留学プログラム報告書

理工学部電気電子生命学科 学部 2 年
(プログラム参加時)

私は 2 月 12 日から 3 月 30 日まで吉岡奨学金を利用させていただき、MJIIT に短期留学しておりました、池本有輝です。この度のマレーシアへの留学は日本では体験できない、貴重な体験になりました。誠にありがとうございます。

この報告書で私の参加動機、マレーシアでの日々、将来の展望についてまとめました。

1、プログラム参加の動機

私がマレーシアに留学した理由は以下の三つでした。

一つ目、私の日本での生活を見直すため。

私は日本の大学生の勉強や生活について、疑問に感じる事が多くありました。当時、二年生であったため、研究をするわけでもなくただひたすら講義を受け、テストを受けるといった日々を送っていました。この生活は他の国の学生と比較するとどうなのか、という疑問を持っておりました。

二つ目、私の英語の語学力を試してみるため。

私は、旅行や短期留学・研修で海外に出かけたことが何回かありました。しかし、いずれも他の日本人と共に過ごす時間が長く、英語をあまり使わずとも生活ができました。そこで、英語をまるで母国語のように使用するマレーシアへ少人数で行けるこのプログラムに興味をわきました。

三つ目、日本以外の文化に触れたいため。

日本人は電車や授業などで外国人を見かけると気まずい思いをすることが多いと思います。一方で、マレーシアは多民族が共存している社会です。人々がどのように生活をしているのか直接見てみたいと思いました。

2、マレーシアでの日々

授業

Muzahidul 先生にご指導いただき、私は現地の学生と共に電気専攻のクラスに参加することにしました。私は、既に日本で学んだ専門教科を受講しましたが、英語を使った解説は時に難しく感じることもありました。

正直なところを申し上げますと、私はマレーシアの教育は日本に比べ、劣っているものだと思っていました。しかし、実際はそんなことはありませんでした。

授業は 8 時から 18 時までと日本の大学よりも忙しく、専門科目は全て英語で行われ、技術者を育成する環境は日本に引けを取らないものだと感じました。

しかも、日本語の授業を受けている学生が多く、挨拶や会話のできる人が多くいました。こうなってくると、日本人である私の長所は何があるのかと考えずにはいられませんでした。

また、茶道の講演会の際、堀江先生の計らいで講師の方にご質問させていただき、その後お話を伺いました。日本の文化を海外で学ぶことに戸惑いましたが、日本人が培ってきた一つ一つの動作を工学部の授業に取り入れることの意義を知ることができました。

放課後

MJITの学生、マレーシアの人々はとても気さくで、授業ではとても多くの友人ができました。そして放課後になると、彼らの滞在している寮に案内され、スポーツやゲームなどをしたり、一緒に夕飯を食べたりしました。

彼らは、日本のアニメや漫画、ドラマなどを私以上に知っており、日本の良さを改めて感じさせてくれました。

また、普段の勉強姿勢についても垣間見ることができ、私の勉強に対する動機を刺激するものとなりました。

食事は、マレー料理や中華料理、インド風のものから、中東系のものまでありました。マレーシアが多文化であることを一番身近に感じられるものでした。

寮(BATC)での生活

私が滞在していたBATCには中国やイランなど、他国から来られた学生の方がいて、その方々と食事をしたり、文化や宗教、政治などの考え方の違いについて話したりしました。特に中国の方と領土問題について話したことや、イランの方に料理をいただいたことはとても印象に残っております。

言語について

私は休みの日はモスクや博物館、遺跡などの観光地やショッピングモールに出かけました。それらの場所では、店員や客は英語で会話していたため、私も理解し楽しむことができたのですが、市街地の出店やレストランでは英語が伝わらないこともありました。そのため、スマートフォンで調べたり、ジェスチャーを使ったりして何とか会話し、共通の言語を持っていなくても会話することができたという自信になりました。

また、華僑の友人と漢字の違いや成り立ちについて会話したり、カラオケに行ったりしたことで、マレーシアでの中国語、世界での中国語の存在を意識するようになりました。

宗教について

私たち日本人は宗教に対して強い信念を持っている人が少ない傾向にありますが、マレーシアでも若者を中心に同じ傾向がある様に見えました。しかし、日本人以上に宗教に熱心な方が多いとは言えると思います。私のムスリムの友人の多くは厳然としてルールに従っている人でしたが、裏で娯楽やたばこを楽しむ人も時々いました。また、仏教を信仰している友人に話を聞いても同様でした。私たち若い世代は、自分たちが大事にするものを自ら選択し、守っていくことが大事なのだと感じました。

また私はイスラム教について無知な部分が多く、恥ずかしながら一日五回放送されるアザーンやモスクなどに最初は恐怖すら感じていました。友人に尋ねたり、モスクのボランティアとお話したりすることで、全てを理解することはできませんでしたが、共に生活することに慣れることができました。

民族について

私は授業で仲良くなった友人と放課後に食事に行ったり、遊んだりしたのですが、中華系の人とマレー系の人とが一緒に遊ぶことはあまりありませんでした。マレー系の人々が優遇されている社会や宗教の隔たりが、そこにはあるのではないかと感じました。

3、将来の展望

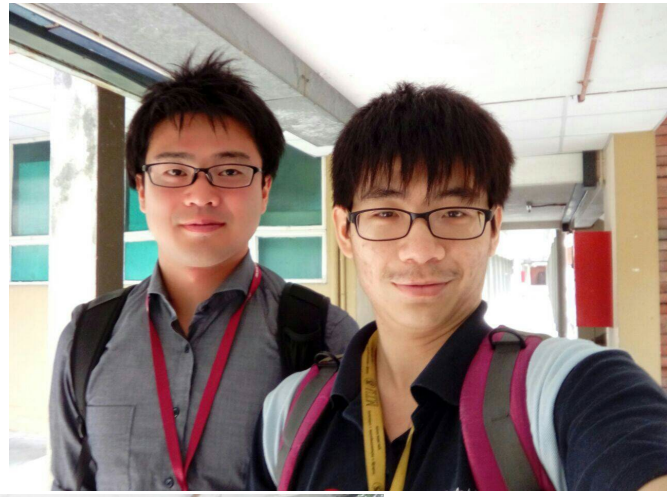
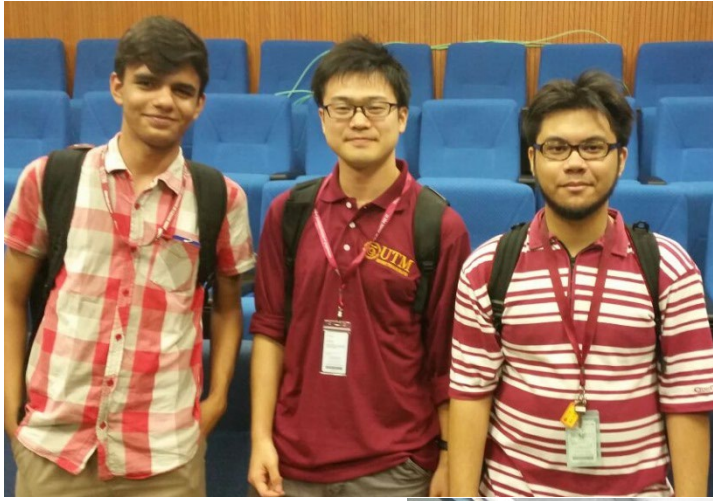
今回の留学を通して、出身国や宗教が様々な方とお会いすることができました。そこから得られたものは、人と接するときに、私が今まで生きてきた環境を当たり前だと思わないで、相手の立場で考えるべきだ、という基本的なことです。どんなに文化が違っていても、お互いを尊重し合えば、理解することができます。しかし、それには大事な前提条件があります。それは、意見交換です。そして、それが世界中で可能なのは、英語、中国語だと確信しております。今後は、英語を中心に、自分の思いを正確に伝えられる語学力を身に着けていきたいと思っております。

また、外国の方と接するときに、私から発信できるものを多く持ちたいと思いました。そこで、研究室に配属された後は専門性を高め、読書を通して、いま日本で起こっていることや知識を増やしていきたいと考えております。

これらをふまえ、私は将来、日本とマレーシア、日本と海外をつなぐ、エンジニアになりたいと考えております。

本プログラムにて、貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

この場をお借りして、本プログラムの奨学金を出していただいた、ローム・ワコー株式会社吉岡洋介会長に御礼申し上げます。また、ご指導いただいた、Muzahidul 先生、堀江先生、山田さんをはじめ、留学を手助けして下さった皆様に感謝申し上げます。



左上の写真の左の人はAFIQ君です。彼は私とほとんど同じ授業を履修していて、分からないことはいつも彼に聞いていました。また、右上の写真はチュア君です。彼はとても日本語が上手であったため、彼と話すときはいつも、私自身が話す日本語が正確なのか気になっていました。

そのほかの人たちも私のクラスメートとその友人たちで、みんな、私に親切に大学や町を紹介してくれたり、一緒に食事をしたりしました。また、休日にはカラオケやゲームセンターなどに遊びに行きました。



これはブルーモスクです。ここでは、ボランティアの方が私のイスラム教についての素朴な問いに答えてくださいました。



これは BATC で、イランから来たリリーさん、スンメイさん達と軽いお菓子と共に談笑した際の写真です。互いの国のお菓子や楽器などのお話をしました。また、日本の経営学者の本を紹介していただき、日本のことを再認識する機会にもなりました。

ペトロナスツインタワーをバックに撮った写真です。この日はクラスメートにクアラルンプールをバイクで案内してもらいました。4, 5台のバイクで行ったのですが、全てヤマハ製であったことに驚きました。



これは、違う学科の友人も参加し、カラオケに行った時の写真です。一番右のレッド君は、私が帰国した後、研修のため来日しました。彼にはマレーシアでお世話になっていたため、日本の観光地を案内でき、とても良かったと感じています。

このように、私は海外の友人を作ることができました。マレーシアの学生は真面目な人が多く、とても刺激を受けます。これからも、SNS を利用して、お互いの文化を共有し、勉学や研究で切磋琢磨し合う関係を続けていきたいと考えています。